

第23号

平成21年11月

●スペースパークボランティアの会●

# S.P.V つららん

発行:スペースパークボランティアの会 広報部会 〒963-8002 福島県郡山市駅前2-11-1 郡山市ふれあい科学館内 TEL024(936)0201

## 鉄道ジオラマグループ特集!

### SL(Steam Locomotive)に夢かけた青春期!



現在、私たちの日常生活の基盤である「車社会」は、地球温暖化など環境の変化に大きな影響を与えています。

しかし、約半世紀前の昭和30年代までは鉄道交通が人々の生活を支え、蒸気機関車(SL)が主役だったのです。その後の社会経済の発展に伴い国内から多くのSLが廃車となり、SLは姿を消してきました。

今回掲載した画像は、昭和43年(1968年)9月に磐越東線からSLが消えましたが、その約1か月前に当時郡山機関区の機関士であった私(37歳)と国鉄中央鉄道学園の視聴覚担当で担任講師が「過去におけるSLの業績及び運転の実態を後世に残そう」と国鉄当局の許可のもと、走行中の運転室内を8ミリカメラで収録した動画の1コマです。(収録日時=昭和43年8月20日[晴] 午後2時頃、場所=磐越東線 下り旅客 第729列車 小川郷～川前～夏井間、使用機関車=D6052号機)

その後、県内でも約10年前から「SL磐梯会津路号」や「SLばんえつ物語号」などが復活し、当時の面影を偲ぶことが出来るようになりました。

しかしながら、SLは運転や保守などが容易ではなく、石炭を燃やし水を蒸気に変えた圧力により走るので、電車やディーゼルカーのように一人では運転できないのです。

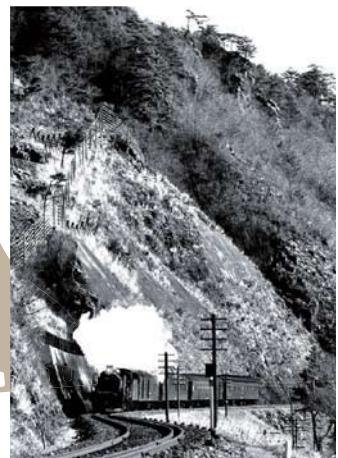
特に運転については、運転室は狭く、振動が激しく、視界が悪く右半分が全く見えないです。また、夏場は暑く室内温度は50℃を超え、冬期には風雪が吹き込み寒くびしい日も多くありました。それ故、機関士と機関助士の連係プレーが重要であり不可欠だったのであります。「一日も早く機関士になり、縦横に山野を駆け抜けたい。」と、SLに憧れを託した若い缶焚き(かまたき)=機関助士だった私たちの夢であり、古き良き時代の男たちのロマンでもあったのです。

一方、私たちの郡山市ふれあい科学館においても、平成13年10月開館以来8年を迎えた今日、同14年6月鉄道ジオラマボランティア活動開始、同15年7月案内・科学・天文の各グループの活動開始、同16年2月スペースパークボランティアの会(S.P.V)設立と順調な業績を発揮してまいりました。そして、宇宙サイエンスをはじめとする課題に熱意をよせ来館する子どもたちに“夢”と“希望”与えるよう、会員互いに手を携えまい進していきたいと思います。

先述の動画につきましては、去る8月20日に、NHKテレビ「マイビデオコーナー」にて放送されました。

また、わたくし事ですが永年「鉄道業務功労」ということで今年春の叙勲において、はからずも「端寶暉光章」受賞の栄に浴しました。これもひとえに、関係皆さま方のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

(瀧田 上之助)



### スペースパークボランティア募集!

※無償参加可能な方。他応募条件有り。詳しくはお問い合わせください。  
郡山市ふれあい科学館スペースパークでは生涯学習ボランティアを募集しています。現在、当館では幅広い年代層のボランティアの方々が活躍しています。私たちと一緒に楽しんでみませんか。興味がある方は、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先:郡山市ふれあい科学館 管理課  
**TEL024-936-0201**

# 鉄道ジオラマグループ特集!

## ボランティアと仲間たち

平成13年10月に科学館がオープンし、新設の鉄道ジオラマの解説要員グループにボランティア第1号として参加し8年が経過しました。

しかし、退会者も多く設立当初からの会員は年々少くなり、年月の早さを実感しております。これは、新入会員の減少と不幸にも亡くなられた方が4人もおられたこと、JR東日本の退職者が少なくなり65歳まで雇用される人が増えたため、ボランティアに参加できる人が少なくなっていることなどが大きな原因だと思われます。

また、鉄道の知識が普遍化し、ジオラマの解説にそれほど専門知識

が必要でなくなった背景もあるのでしょうか。

他グループの会員が、毎年増えているのに鉄道ジオラマグループだけが増えてない状況の中、われわれの努力不足もありますが、他グループの方々の協力を得ながら鉄道ジオラマグループの灯を消さないようにしたいと念じております。

それでも、3月の「ボランティアまつり」と10月の「鉄道フェスティバル」には、たくさんの鉄道ファンが訪れます。この二大行事を毎年にぎやかに開催できるよう仲間たちと語り合うこの頃です。(兼谷 豪)



## ◎鉄道模型との出会い

「三つ子の魂百まで」とか、「雀百まで踊り忘れず」とかいう諺がありますが、私が汽車に興味を持ったのは三歳頃かと思います。以来約60年近く汽車や電車を楽しみながら現在に至っています。当時は木製の

玩具が大半で、その後フリクション付きやネジで線路上を走るものや電池で走るものも出てきました。電気で動く鉄道模型は戦前からあったようですが、この頃の記憶はありません。これらの汽車や電車の玩具を亡き祖父母から買って貰って遊んでいましたが、不思議なことに父から買って貰った記憶はありません。その頃祖母は三ヶ月毎に東京へ出かけていたため、私もその都度連れて行っておりました。そしてデパートへ行けば必ず玩具売場に直行し自分の欲しいものを買って貰うまでは、その場所を動かすだけがダダをこねていたそうです。

鉄道模型に出会ったのは小学校一年生の時、亡き祖母に連れられて秋葉原にあった交通博物館です。そこで見たのがHOゲージの大ジオラマです。今でいうカルチャーショックとも言うべきでしょうか。その後東京へ行くたびに必ず交通博物館へは行きました。当時のHOゲージは高級精密でとても子供の遊びには向かないものでした。そして小学校三年生の時、亡き祖父にOゲージの鉄道模型一式を買って貰ってから延々と50数年、鉄道模型を楽しんでいます。この模型はNゲージに比べると大きく極めて玩具的なものですが、今でも実家の自分の部屋に鎮座しております。Nゲージの方も約40年近くになりますが、最近では趣味の対象である旧国鉄型がほとんど製品化されていますので、新幹線車両や現JR各社の車両の導入を始めました。

私の鉄道には正式な名称ではありませんが俗称(我楽多鉄道)と申します。ガラクタと読みますが、われ・多く・楽しむ鉄道です。いずれ、現在の第二の職場を退職し郡山へ帰ってきたら、本格的な組立式のジオラマを設置したいと考えております。

なぜ、固定式のジオラマを製作しないのかと思われるでしょうが、今までの経験で固定式のジオラマですと完成後、必ずそこをこうすべきだった後悔するので、私のジオラマは何時でも解体、設置できる組立式としております。

## ◎ボランティア活動で思うこと

ふれあい科学館での鉄道模型体験運転も8年経過し、一般市民にも

認知されたイベントになってきたと思います。年に3回程度の体験運転会ですが、毎回参加する子どもたちの場合には安心して運転させることができます。未経験者や幼児の場合は特に注意が必要です。実際、今までに車両を壊されたこともあります。パンタグラフや動力部分が特に多く、古い製品の場合には部品が無く仙台市内の模型店でも見つからず、やっと福島市内の模型店で手に入れたこともあります。また、パワーパックも1台壊されて修理不能となっています。

7月の運転会では小学校一年生以上でしたが、昨年の夏休みの仙台市科学館でのイベントでは鉄道模型の体験運転は小学校三年生以上としてありました。事情を聞いたところ、小さい子どもでは注意しても聞かず無理な運転をして車両が壊されるためとのこと。

それと親の態度です。7月の運転会にも注意を聞かない子供に対し親の前で怒ったことがあります。

またある親から「何で自由に動かせないんだ。速度を制限したりバッカさせなかつたり子供が楽しめないのでないか」と言われたこともあります。こんな時は腹がたつんですね。

以前にS.P.Vつうしんにも記載しましたが、1時間で約30人の子供の相手は疲れます。身体的な疲れより精神的な疲れが多く、7月の運転会のように持込コーナーを管理しないだけでも助かりました。

今年も鉄道の日のイベントとして、仙台駅で鉄道模型の展示運転会が実施され大いに盛り上がっておりました。その時、同クラブの会長(JR社員)に体験運転について質問したところ次の回答がありました。

以前は体験運転を実施していたが無茶な運転による車両破損が多く、メンテナンスに手間や金がかかる。現在では展示運転会はやるが体験運転はやらないとのこと。

体験運転については、今後検討すべき事項が多いように思われます。  
◎持込運転のマニアについて

7月の運転会の時、一部のマニアよりクラブを作りませんかとの話がありましたが、「趣味はあくまで個人が楽しむもの」と思っていますのでお断りいたしました。

また、学校のクラブ活動や仲良しクラブならば何ら問題はありませんが、クラブとなると必要経費の問題や運転会の際のレールや高架橋、各機器等についての使用方法等の問題をクリアしなければ不可能と思われます。

(渡辺知彦)



## 転ばぬ先の杖

歳を重ねる毎に身近な事柄が忘れがちになり、遠い昔のことが甦ってくる。これは老化現象なのか、小学生のころ先生から教えられた事柄を思い出す。

それは、「泥棒を捕らえて縄もじりをする様な事をするな」という言葉だったが、何事も計画的に行い後悔しないようとの教訓のようだ。

人生の峠をすぎていまさらと思いがちだが、人生とは終着駅までは人生ではないのか?現役を退いたからといって惰性で生きてなるものか、まして悠々自適の身なんて人生あまりほめられた言葉とは思えない。医学の進歩に伴い日本は世界一の長寿国になったが、その副産物として寝た

きり、痴呆、食生活のアンバランスからくる生活習慣病が増えてきているとか。もし、このような病気になつた場合、家族はもちろんのこと周囲の人に計り知れない迷惑を及ぼすことになり、決して自分だけの問題ではなくなると思う。

政府もこれらの対策として介護保険制度をスタートさせたが、肝要なのは自分を守るのは医者でもなければ介護保険でもなく病気にからないよう努力することではないだろうか。そのためには、自分自身で健康管理の目標を立て実践することが今後の“転ばぬ先の杖”となるものだと思います。

(国分 辰夫)

# 鉄道ジオラマグループ特集!

## 鉄道フェスティバルを顧みて

長い間毎年実施されております「鉄道フェスティバル」も、今年で8年目を迎え盛大に開催されました。多くのファンが連続3日間次々と会場を訪れ、一息つく暇がない程の盛況ぶりでした。

旧国鉄OBによる鉄道ジオラマのボランティア活動は、ふれあい科学館22階展望ロビーの日本最大級Nゲージ鉄道ジオラマで平成14年6月からスタートしました。

「鉄道フェスティバル」は当初ふれあい科学館のイベントの一つであり、イベントに参加しているメンバーは国鉄の種々な職場からの方々であつまっており、みなさん希望に満ちて鉄道ボランティアに入会されました。が、昨今はJRからの退職者も少なくなり、入会者数が“0”に等しくなってしまいました。

現在、鉄道ジオラマのボランティア会員数は20名弱おりますが、活動者は若干名と非常に少なく、鉄道ジオラマボランティアの単独施行は困難な状態です。そんな中、平成16年のS.P.Vの発足に伴い他のグループが鉄道フェスティバルに協力することになり、鉄道フェスティバルが現在も力強く維持している所以と思われます。

今回特に感じたことは、鉄道フェスティバルが盛大のうちに終了することができたことは、とりもなおさず科学館関係者は勿論のこと、久野

会長を中心とした各グループの惜しみない応援の賜と深く感謝します。

鉄道フェスティバルの客層は「老若男女」と幅広いが、真剣に好きな動く物体を見つめている幼い子どもたちの姿が興味深く感じられました。

小学生の子どもの中には一日中20階と21階を歩き回り、何回となく質問に訪れる子どももいてその姿には感銘覚えます。

この行事はいつまでも続けてほしいし、無くしてはなりません。未来の子どもたちのために、蒸気機関車には素晴らしい構造学・力学があることを、次世代の子どもに教えたいと思います。

毎回のことながら、このフェスティバル遂行のため多くの展示品を出品される方々（瀧田、浅利、兼谷など）、そのほか協力をいただいているいわきの「良平さん」、福島の方などの数多い出品者に対し最大の賛辞を呈し、深い謝意を表します。

願わくば、ますます意義のある「鉄道フェスティバル」に対し、輝かしい前途のため惜しみない拍手を贈ります。 （草野 二通）



## 鉄道の日

10月14日は「鉄道の日」です。毎年のこと10月に入ると鉄道に関係したイベントが各地で行われます。科学館でも10月10日～12日にかけて「鉄道フェスティバル」が開催されました。

昔からの鉄道用品の展示、プラレール、Nゲージ体験コーナーなどで大変盛り上りました。SLや展示品を昔懐かしむ人たちと、これから新しい鉄道の好きな人たちのために郡山の発展代表的な2つの駅について書いてみ見ます。

郡山は日本列島の脇（へそ）にあたる地域で、交通や物流の要所として明治20年7月16日に駅が開業し、それから121年（1世紀以上）が経過しています。郡山駅は安積疋水とともに発展し、新幹線は昭和57年に開業し国の発展の原動力として極めて重要な役割を果たしました。

物流については東洋一の郡山操作場（現：郡山貨物ターミナル駅）が、昭和40年10月安積町地内に総面積：30万m<sup>2</sup>、総事業費：44億円を投じ完

成しました。近代化された自動化ヤードとコンピュータ化された情報システムで、一日の処理可能台数は4,000両といわれた大きなヤードでした。しかしながら、自動車の発達と高速道路の整備が進んだことにより貨物輸送は衰退しました。

昭和62年に国有鉄道が東日本旅客株式会社（旅客）と日本貨物鉄道株式会社（物流）の2社に分割発足し、現在郡山貨物ターミナル駅は郡山市の原動力として活動しております。

さて、私たち鉄道ジオラマボランティアグループは、生涯学習として自分たちの学習したことがこれからのお子様たちに何を伝えていけば良いのかを考えるときがあります。

今回の鉄道フェスティバルのボランティア活動中のことです。毎年Nゲージ体験に来ておりました一人の学生がひょっこり顔を見せ、「おじさん暫く、念願が叶いおかげで鉄道関係に就職しました。」と報告してくれ、「良かったね！」と祝福しました。私たちのボランティア活動が一人の学生の夢をお手伝いできたことを知り、今年の「鉄道の日」は素敵な一日でした。

（浅利 正美）

## 今号のきら星☆さん

☆鉄道ジオラマによせて 鉄道ジオラマグループ 新田 彌さん

郡山市からの要請でボランティアをはじめ5年になる。当時、鉄道OB会がよばれジオラマを見学し打ち合わせに入る。車両センターは会員の高齢化と鉄道全般の説明は苦手であると辞退し、郡山支部と富久山支部で準備に入る。国鉄を離れて20年がたつ人が多いので、まずJRの現場で現車の勉強から始める。

ボランティア活動予定日にはできるだけ空白を作らないために、郡山支部、機関区は1班・2班、富久山支部、郡山客貨車OB会を3班・4班にして運用した。

10月14日は鉄道の記念日であり、この前後に鉄道フェスティバルのイベントを開催する。展示物になる部品集めに入る。現職時代から関心のある人に頼み、ある先輩は「2日も倉庫に入り探すのに目を輝かせていた。」と奥様が笑って話してくれました。仙台の東北鉄道学園

閉鎖のとき、必要なものは引き取るように通知を受けたが、参加しなかったことが悔やまれる。

また、ボランティ活動に悩みがあります。それは、高齢で活動メンバーの不足である。駅長、指導センター長にお願いするほか、職員にも呼び掛けているが、新メンバーが集まらない。発足当時のメンバーで、橋本秀雄・安部今朝雄・蓮見尚志・村越孝善・今泉則男の皆様は他界して、別の世界から私共の活動を見守ってくれています。

最後に郡山の発展は、安積疋水と交通の要所であること。その鉄道にタッチできるのが嬉しい。ボランティアの灯を消さないことを心に誓うものである。



天ボラの

# 知識泉<sup>②</sup>

●冬の星座

冬の星座たちが一番見つけやすい位置に昇って来ています。とても目につく星は、ギラギラと青白い輝きのシリウスです。ギリシャ語で「焼き焦がすもの」という意味です。夏には太陽といっしょになって昇ってきます。それゆえ夏の暑さはシリウスが太陽といっしょになって空から地上を焼き焦がしていると古代の人々に考えられたのです。

そして、シリウスのやや右上にオリオン座があります。シリウスから左上の視線を向けると、少しシリウスよりは輝きが劣りますが、同様な青白い星が見つかるでしょう。こちらは、こいぬ座のプロキオンです。「犬の前に」という意味ですが、古代エジプトでは、夏の夜明けに昇るシリウスが

エジプトのナイル川の氾濫を告げる星とされていました。そのシリウスよりも前に、地平線上に現れることから名付けられたとされています。0.4等級の明るさで肉眼では白く見えますが、実際はやや黄色味を帯びています。太陽に16番目に近い恒星で、その明るさは全天で8番目です。ちなみに、先程のシリウスは太陽に7番目に近い恒星です。さらにならに、夜空に見える明るい21個の星を1等星としていますが、シリウスは最も明るく-1.5等です。1等星より明るいものは0等星、それより明るいとマイナスになるので、シリウスは-1等星ということです。(菅沼一美)

## 内田博士の魂の叫び!! ⑯『対応?コミュニケーション?』

内田「○○君、この問題集はどこで買ったの?」

学生「△△書店です。」

内田「××さん、この用語辞典はどこで買ったの?」

学生「どうしてですか、何がまづかったですか。」

○○君は男子学生で××さんは女子学生。女性というのは警戒心が強いとも言うか、私の発言に対して次の手を打とうとしているのかはともかく、女性のメンタリティというのはまことに不可解なものだと感じる。私なら「△△書店ですが、何か?」と答えるだろう。

内田「このパソコンいくらですか」

店員「何のアプリケーションを使うかによって違います」

内田「インターネットと文章作成、デジカメですかね」

店員「ですから、それらのアプリケーションを何にするかに

よって違います」

内田「…」

勿論、店員は私がパソコンをどのように使っているのかは知らないし、「動画や画像の編集などは行いますか」などと質問してくるでもない。店員にとって、私を取巻くパソコン環境など知りたいとも思わないわけだから無理はない。似たようなことはよくあるわけで、知らない事を知らないと言えない、言いたくない時にもこのような状況が発生する。

このように人ととのコミュニケーションの中で、質問内容に対する答えが答えにならないという状況にはたまにぶつかるし、はたまた質問に対して質問で答える人もいる。

内田「こちらの宿泊料金はおいくらですか」

従業員「お部屋のタイプは」

内田「シングルで」

従業員「平日ですか、休日ですか、休日前ですか」

内田「平日です」

従業員「いつ頃ですか」

この時には必要としている情報を得るためにこの先どれぐらい質問されるかわからないと閉口し、「結構です」と立ち去った。どうして最初から「平日ですかハイシーズンでなければシングル1万2千円です」とテキパキと答えられないものなのだろうか。質問に質問、答えになっていない答え、どちらもイララとする。

どれも質問に対して答えるという点では間違ってはいいが、コミュニケーションとしては成り立っていない。つまり聞き手が何を望んでいるのか、の協力性がない話し手ゆえに、何も生まれないのである。私たちSPVはコミュニケーションを大切にし、新しいものを創造してゆきたいものである。

### イベント情報



写真は昨年度活動の様子です。

## Event Information

### ボランティアまつり

●3/20(土)~22(月・祝)

10:00~17:00

会場:22階展望ロビー 参加費:無料



### S.P.V 活動情報(～3月)

#### 案内サービス “昔懐かし”紙芝居

◇平日11:30～、土日祝11:30～、14:30～(約15分)  
☆22階展望ロビー(北)、随時実演

#### 鉄道ジオラマ ジオラマショー案内

◇11:00～、15:00～、17:00～(約20分)  
☆22階展望ロビー(東)

#### 他に市内出張活動や駅前イベントにも出展予定

#### 科 学 かんたん科学工作ほか

◇土日祝10:00～15:30 ☆21階展示ゾーン入館者対象

#### 天 文 駅前観望会

◇3/6(土)、3/13(土)、3/20(土)、3/27(土)  
19:00～20:00  
☆郡山駅西口駅前広場(中央広場)



※科学館休館日を除く。なお都合により活動が休止となることがありますのでご了承下さい。

### ★『S.P.Vつうしん』発行予定 第24号 3月下旬★

★S.P.Vの楽しくてタイムリーなボランティア活動情報をHPでお知らせしています

HPアドレス <http://www.spacepark.city.koriyama.fukushima.jp>

募集や活動等についてのお問合せは……郡山市ふれあい科学館 TEL024(936)0201まで

- (国)鉄道フェスティバル、皆様のご協力によりまして、無事終了致しました。誠にありがとうございました。
- (隆)SLの汽笛と排気音、三等客車の固い座席に響くレールの継ぎ目、駅弁に土瓶入りのお茶、あゝ、ノスタルジア。
- (星)2009年は世界天文年ということで、多くの人に星に親しんでいただけたと思います。これからもみんなが宇宙に興味をもって星を見上げてくれたらしいなあと思います。
- (椎)寒い冬…外で星をみながら心だけでもあたたまりませんか?

編集あとがき